

保険薬局の 動向

「患者のための薬局ビジョン」まとまる

厚生労働省は昨年11月、2014年度の衛生行政報告例の結果を公表した。それによると、14年度末時点の薬局数は5万7784カ所で、前年度より713カ所(1.2%)増加していることが明らかになった。5年前との比較では4000カ所以上増えており、薬局数の増加傾向が続いている。

人口10万人当たりの薬局数は45.5カ所で、前年度よりも0.7カ所の増加。都道府県別に人口10万対薬局数の推移を見ると、佐賀県が63.8カ所で最も多く、山口県の58.5カ所、広島県の57.4カ所、福岡県の56.5カ所が続いた。昨年度と同様に、西日本で多い傾向は変わっていない。

一方で、最も少なかったのは福井県の35.7カ所。次いで、奈良県の37.5カ所、埼玉県・千葉県・京都府の37.7カ所、沖縄県の39.9カ所だった。

また厚労省は昨年10月、『「患者のための薬局ビジョン」～「門前」から「かかりつけ」、そして「地域」へ～』をまとめた。患者本位の医薬分業の実

現に向けて、かかりつけ薬剤師・薬局の今後の姿を明らかにすると共に、25年、さらに10年後の35年に向けた中長期的視点に立って、現在の薬局をかかりつけ薬局に再編する道筋を示したもの。

ビジョンでは、かかりつけ薬剤師・薬局が持つべき機能として、▷服薬情報の一元的・継続的把握▷24時間対応・在宅対応▷医療機関との連携――を挙げ、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者になる25年までに全ての薬局が「かかりつけ機能」を持つことを目指すとした。また、チェーンの門前薬局を念頭に、「建て替え時期等を契機に立地を地域へ移行」などと明記し、

薬局再編の全体像も示した。

さらに、医薬分業の政策効果を評価するための仕組みも導入し、具体的な評価指標は今後検討するとしている。

同ビジョンに明記された「25年までに、全ての薬局がかかりつけ薬局としての機能を持つことを目指す」との方向性に関して、日本薬剤師会の山本信夫会長は、「5年後くらいまでには何らかのメドは示したい」との考えを提示。「このビジョンがどれだけ(診療報酬)改定に影響するかは分からないが」とした上で、18年度の医療・介護報酬同時改定から2年後の20年度改定くらいが「階段で言えば踊り場になる」との見解を示した。

山本会長は、5年後までに「どの程度、かかりつけ薬剤師・薬局の普及が進み、健康サポート薬局がどれだけ機能しているかが重要になる」とし、「その時までに全ての薬局ということではないが、少なくともかかりつけ薬剤師

・薬局といわれるものが、日本中にかなりの数、存在しているという状況にはしたい」との意気込みを語っている。

日本保険薬局協会(NPhA)も同ビジョンに対する声明を発表。ビジョンを地域で保険薬局が担う機能をまとめたものと捉え、「立地」に依存しない「機能」をサービスとして提供できる薬局へと転換、集約を図れるよう努力するとしている。

NPhAの声明では、ビジョンで示された「門前」から「かかりつけ」「地域」へという課題を真摯に受け止め、会員に対して実現に向けた取り組みを促し、課題の具体的対応策を検討するとした。

その上で、ビジョンでは「健康サポート機能と高度薬学管理機能が求められ、薬剤師の対物業務から対人業務への転換が重要な課題」と指摘。新たに「保険薬局キャリアづくり支援センター」を立ち上げ、会員企業の職員の能力開発、キャリア形成をバックアップしていく方針を打ち出している。

患者との距離が近い仕事

昨年10月からは在宅業務も担当

「調剤薬局での仕事は、患者様との直接の距離が近いと感じています」と語る林田知美さん。ファーマライズホールディングスが運営するファーマライズ薬局山手町店(横浜市中区)に勤務する薬剤師だ。2014年3月に帝京大学薬学部を卒業し、同年4月に入社。今年、2年目を迎えている。

ファーマライズ薬局山手町店 林田 知美さん

林田さんは高校時代、進学先を選択するに当たり、「一生働きたい」という思いがあった。理系だったために薬学部も選択肢の中にあり、薬剤師という資格を取得して一生働けること、さらには「人のためになる仕事」という点で興味を持ったことが、薬学部への進学につながった。

その後、薬剤師の資格を取得。横浜で働きたいという思いがあったことか

ら、勤務地や勤務スタイルなども考慮して同社への入社を志望した。

同社入社後は山手町店に配属され、現在に至っている。現在の仕事内容は調剤業務がメインとなっているが、15年10月から在宅業務を1件担当。「まだまだ手探り状態ではありますが、一生懸命に取り組んでいます」とし、「患者様やご家族と話をして、薬の変更があった場合などには、その理由を



説明したりしています。外来では聞きにくいことも、在宅の場合には聞きやすいという面を感じることがあります」とする。

また、林田さんが学生時代に抱いていた薬剤師のイメージは、「患者様とはあまり話をしないのかなというイメージでした」という。しかし、実際に薬剤師としての仕事を積み重ね、「患者様と話をすることも多いです」とし、「また、前回私が投薬を担当したことを覚えていて下さったり、説明した内容を実践されて良かったという話など

を聞くと、やりがいのある仕事だと実感します」と語る。

職場や仕事を選ぶ上でのポイントとしては、「主な進路は薬局や病院、ドラッグストア、メーカー、卸などに分かれると思いますが、まずは、自分が何をやりたくてその会社等に入るのかを明確にする必要があると思います」と指摘。

「私は実務実習を通して、調剤薬局での仕事は患者様との距離が近いと感じました。患者様と近い距離で働きたいと思う人は調剤薬局が向いているのではないかと思います」とアドバイスする。

その上で、「国家試験に合格しなければ薬剤師として働けません。就職活動も大事だと思いますが、勉強もおろそかにせず、学生時代を過ごしてほしいです」とし、「低学年の頃から計画的に地道に取り組むことが資格取得につながるという意識で、日々の勉強も頑張りたいと思います」と、後輩の薬学生に向けてエールを送る。



(調剤薬局) ファーマライズグループは 未来の薬剤師を応援しています!

薬剤師育成奨学金制度のご案内

健康サポートを薬局を担う「未来の薬剤師」を応援する取り組み、それがファーマライズの奨学金制度です。

～ アルバイトに充てる時間を、国家試験対策に ～



●薬学部5～6年生 10名
●6年生過程既卒者 20名

募集定員

30名

[大学在学生のの場合]
年間60万円を1～2年間支給
[大学卒業生のの場合]
予備校の入学金・授業料全額(上限120万円)を支給

薬剤師国家試験に合格後、当社に入社し、希望エリアの店舗に貸与期間と同期間就業した場合には

奨学金の返済を全額免除とします。

その他、応募資格や提出書類、募集期間、選考など詳細につきましては、HPをご覧ください。 <http://www.pharmarise.com/recruit/scholar/>

※ 紹介会社経由の場合は対象外となりますので、直接お問い合わせください。

ファーマライズホールディングス株式会社

〒164-0011 東京都中野区中央一丁目38番1号

TEL : 0120-127-510 (応募者専用フリーダイヤル)
E-mail : hr-sun@pharmarise.co.jp
URL : <http://www.pharmarise.com>



ファーマライズグループの店舗はこのマークが目印です。